

2025年3月期 決算説明会

FY2024 Financial Results Meeting

2025年5月8日

Today's Attendees



代表取締役 社長 COO

Representative Director, President and Chief Operating Officer

滝野 十一

Toichi Takino

執行役員 経営戦略本部 経営管理統括部長

Corporate Officer /
Division Director, Corporate Strategy & Planning,
Business Management Division,

伊藤 雅樹

Masaki Itoh

執行役員 開発本部長

Corporate Officer / Executive Director, Clinical Development

岡本 達也

Tatsuya Okamoto

執行役員 営業本部長

Corporate Officer / Executive Director, Sales and Marketing

北田 浩一

Hirokazu Kitada

オンコロジー統括部長

Director of Oncology Business Division

高橋 宏幸

Hiroyuki Takahashi

Agenda

2025年3月期 業績および今後の見通し

Financial Overview FY 2024 / New-term vision (14:00-14:25)

代表取締役 社長 COO

Representative Director, President and Chief Operating Officer

滝野 十一

Toichi Takino

開発品の進捗状況

Development Pipeline Progress Status (14:25-14:40)

執行役員 開発本部長

Corporate Officer / Executive Director, Clinical Development

岡本 達也

Tatsuya Okamoto

オプジーボの動向

Trend of OPDIVO (14:40-14:55)

執行役員 営業本部長

Corporate Officer / Executive Director, Sales and Marketing

北田 浩一

Hirokazu Kitada

質疑応答

Q&A Session (14:55-15:30)

注意事項

この資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

以下に、事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を挙げますが、これらに限定されるものではありません。

- (i) 新製品開発の失敗
- (ii) 医療保険制度の改革による事業環境の変化
- (iii) 競合品や後発品の影響により、期待した成果を得られない可能性
- (iv) 第三者による知的財産の侵害等
- (v) 自然災害や火災などで、生産の停滞・遅延発生による製品供給の滞り
- (vi) 市販後の医薬品における新たな副作用の発現
- (vii) 為替レートの変動や金利動向

また、この資料には医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2025年3月期 通期実績	2025年3月期は前年度比減収・減益 ・売上収益、コア営業利益、コア当期利益は通期予想を達成 ・フォシーガの販売達成マイルストンの発生等によりフルベースの営業利益、当期利益は通期予想を未達
2026年3月期 通期予想	2026年3月期は前年度比増収・増益を見込む ・デサイフェラ社に係る売上・費用を12か月分見込む ・オプジーボの国内売上およびロイヤルティ収入の増加 ・フォシーガの薬価引き下げ・後発品参入による売上減
研究開発	2025年3月にIonis社から真性多血症治療薬sapablursenを導入 ・2025年前半にはP2試験終了見込み ONO-4059のP2試験が終了 ・2025年度中に米国申請予定
政策保有株式 投資アロケーション	政策保有株式は純資産に対し10%未満を達成 ・今後も継続して縮減を進める 2022-2026年で計画していた投資アロケーションをアップデート

- 売上収益は前期比3.1%減少の4,869億円。10/31に公表した通期業績予想4,850億円を上回る着地。

オプジーボの薬価引き下げの影響やメルク社などからのロイヤルティ収入のロイヤルティ料率低下に伴う減少、前期に計上したアストラゼネカ社との特許関連訴訟の和解に伴う一時金170億円の反動減を、「フォシーガ錠」や買収したデサイフェラ社の「キンロック」などの売上増加でカバー。

- 費用項目はデサイフェラ社の研究開発費、販売費及び一般管理費が加わることで前期比で増加。

研究開発費：LigaChem Biosciences社との創薬提携契約に係る費用など積極的な
研究開発投資を継続

販売費及び一般管理費：「フォシーガ錠」のコ・プロモーション費用を除けば前期と同水準。

- コア営業利益は前期比37.7%減少の1,127億円。10/31に公表した通期業績予想1,100億円を上回る着地。



売上収益
4,869億円

前期比
158億円減少
(▲3.1%)



製品商品売上 3,308億円

前期比138億円増加 (+4.3%)

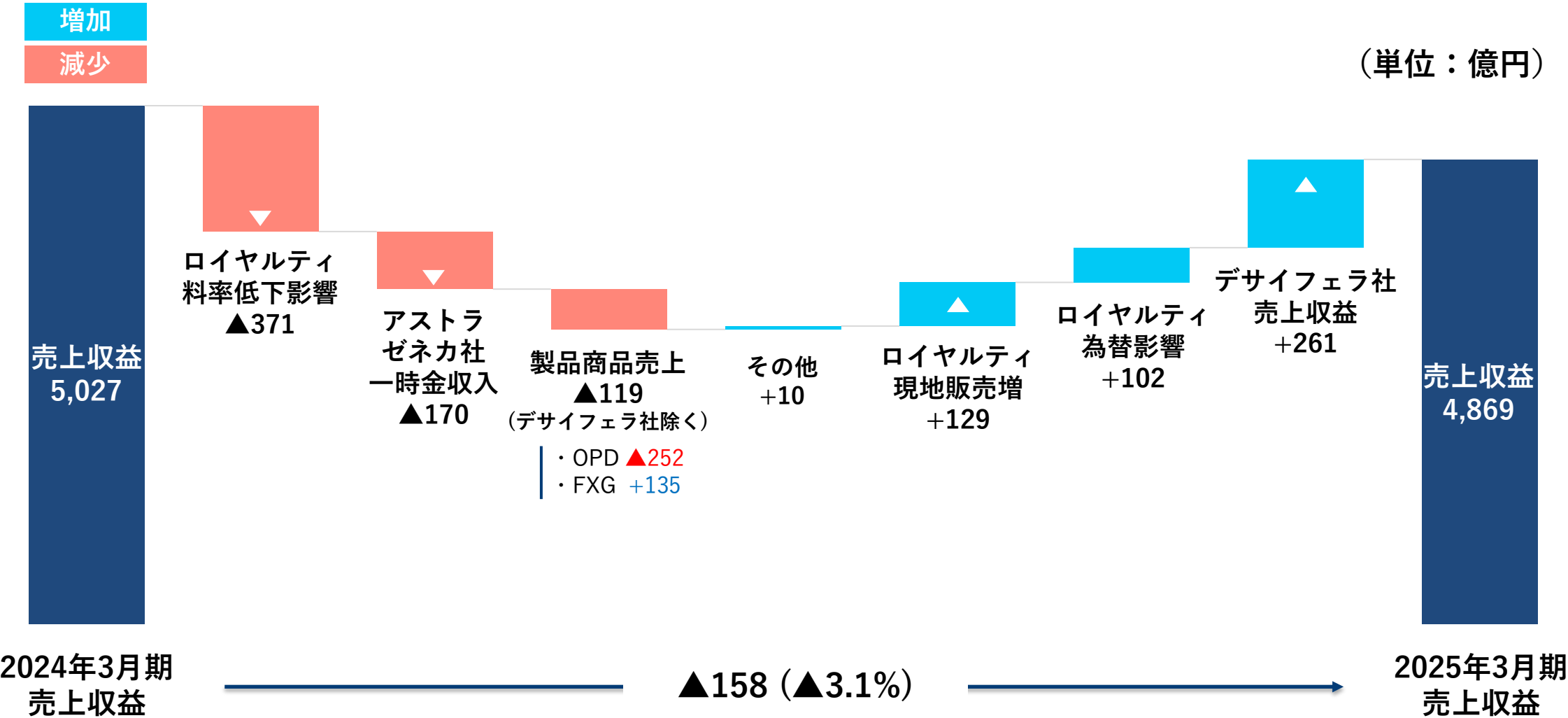


ロイヤルティ・その他 1,561億円

前期比296億円減少 (▲15.9%)

2025年3月期 通期業績 売上収益の内訳

- ・ フォシーガ錠の売上が拡大した一方、オプジーボの薬価引き下げの影響等により、売上減少。
- ・ BMS社からのロイヤルティ収入は増加したが、メルク社などからの料率低下に伴い売上減少。



2025年3月期 通期業績 製品別売上(国内)

億円	2023年度 実績	2024年度 実績	対前期		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
売上収益合計	5,027	<u>4,869</u>	▲158	▲3.1%	4,850
製品商品売上	3,170	<u>3,308</u>	138	4.3%	3,330
ロイヤルティ・その他	1,857	<u>1,561</u>	▲296	▲15.9%	1,520

内訳 製品商品売上（国内）	2023年度 実績	2024年度 実績	対前期		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
オプジーボ点滴静注	1,455	<u>1,203</u>	▲252	▲17.3%	1,250
フォシーガ錠	761	<u>896</u>	135	17.7%	890
オレンシア皮下注	258	<u>266</u>	8	3.0%	270
グラクティブ錠	212	<u>183</u>	▲28	▲13.4%	185
ベレキシブル錠	102	<u>105</u>	3	3.1%	100
カiproリス点滴静注用	91	<u>86</u>	▲5	▲5.9%	95
パーサビブ静注透析用	82	<u>84</u>	2	2.5%	85
オンジェンティス錠	63	<u>76</u>	13	21.0%	75

* 2024年10月31日に公表しました2025年3月期通期の連結業績予想を記載しております。

・ 国内製品商品は、仕切価格（出荷価格）ベースでの売上収益を開示しております。

・ 海外製品商品は、正味売上ベースでの売上収益を開示しております。

2025年3月期 通期業績 製品商品売上(海外)/ロイヤルティ

億円	2023年度 実績	2024年度 実績	対前期		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
売上収益合計	5,027	4,869	▲158	▲3.1%	4,850
製品商品売上	3,170	3,308	138	4.3%	3,330
ロイヤルティ・その他	1,857	1,561	▲296	▲15.9%	1,520

内訳 製品商品売上（海外）	2023年度 実績	2024年度 実績	前期比		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
オプジーボ	120	131	11	9.3%	135
キンロック	—	255	—	—	250

内訳 ロイヤルティ・その他	2023年度 実績	2024年度 実績	前期比		
			増減額	増減率	
オプジーボ	979	1,130	151	15.4%	
キイトルーダ	530	264	▲266	▲50.1%	

* 2024年10月31日に公表しました2025年3月期通期の連結業績予想を記載しております。

- ・ 国内製品商品は、仕切価格（出荷価格）ベースでの売上収益を開示しております。
- ・ 海外製品商品は、正味売上ベースでの売上収益を開示しております。



**コア営業利益
1,127億円**

前期比
683億円減少
(▲37.7%)



売上収益 4,869億円
前期比 158億円減少 (▲3.1%)



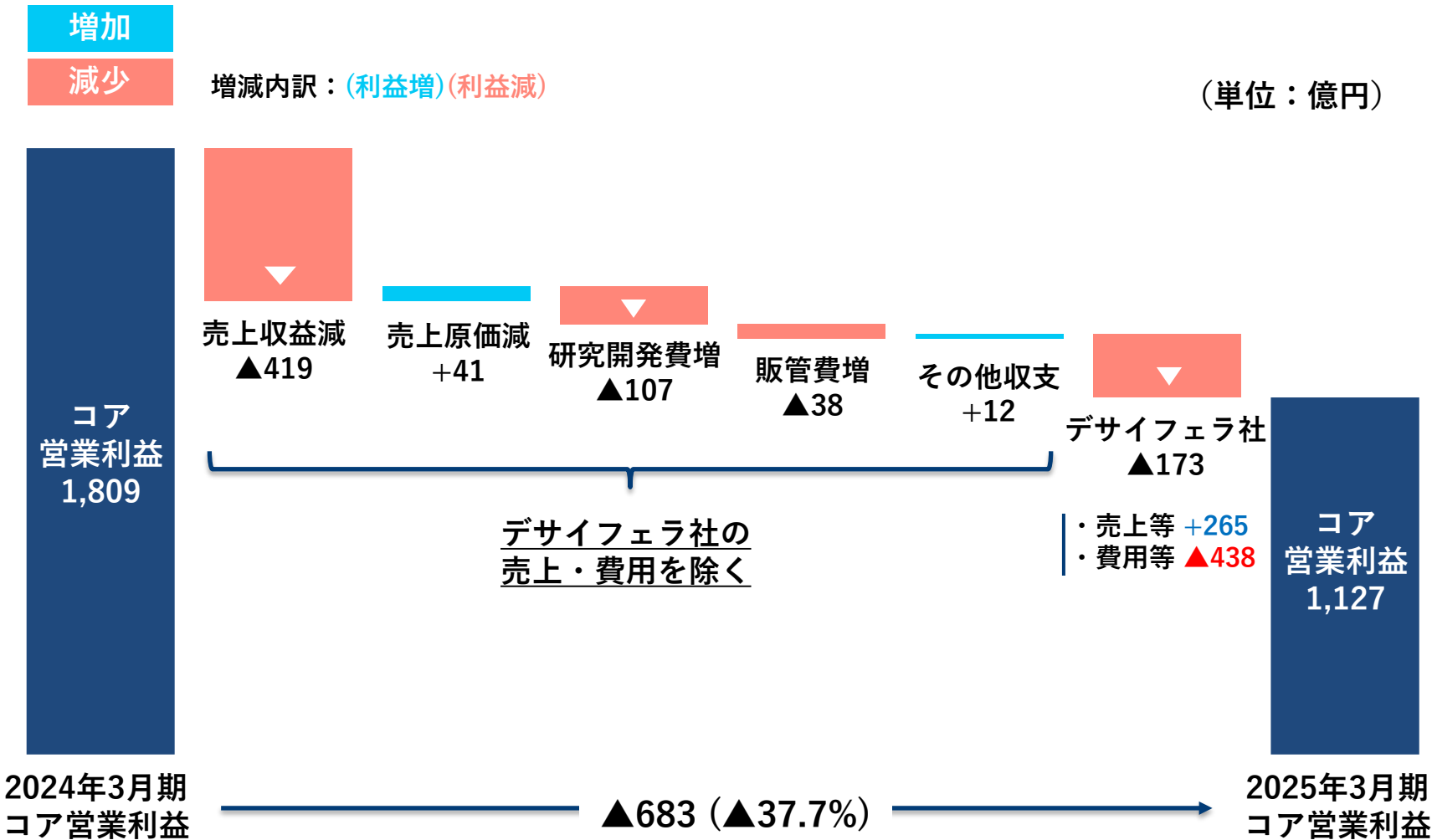
研究開発費 1,433億円
前期比 349億円増加 (+32.1%)



販売費及び一般管理費 1,222億円
前期比 219億円増加 (+21.8%)

2025年3月期 通期業績 コア営業利益の増減

- 売上収益が減少した一方、研究開発費、販管費が増加したことに加え、デサイフェラ社の営業損失を計上したことにより、前期比683億円減少の1,127億円となりました。



増減内訳

売上収益

主な内訳

- 薬価引き下げの影響
- メルク社などのロイヤルティ料率低下
- 前期アストラゼネカ社からの一時金受取に係る反動減 ▲170

研究開発費

主な要因

- 臨床試験に係る開発費用の増加
- LigaChem社への契約一時金等支払

販売費及び一般管理費

主な要因

- フォシーガ コプロモーション費用の増加

2025年3月期 通期業績 連結コア業績

億円	2023年度 実績	2024年度 実績	前期比		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
売上収益	5,027	<u>4,869</u>	▲158	▲3.1%	4,850
売上原価	1,096	<u>1,069</u>	▲27	▲2.5%	1,090
研究開発費	1,085	<u>1,433</u>	349	32.1%	1,430
販管費及び 一般管理費	1,003	<u>1,222</u>	219	21.8%	1,200
その他の収益	6	<u>10</u>	4	66.2%	5
その他の費用	40	<u>28</u>	▲12	▲30.6%	35
コア営業利益	1,809	<u>1,127</u>	▲683	▲37.7%	1,100
コア税引前利益	1,847	<u>1,139</u>	▲708	▲38.3%	1,105
コア当期利益 (親会社所有者帰属分)	1,425	<u>904</u>	▲522	▲36.6%	810

前期比増減内訳

研究開発費 +349億円 (+32.1%)

研究開発費率：29.4%

主な要因

- 臨床試験に係る開発費用の増加
- デサイフェラ社の研究開発費計上 +242億円
- Ligachem社への契約一時金等支払

販売費及び一般管理費 +219億円(+21.8%)

主な要因

- フォシーガ コ・プロモーション費用の増加
- デサイフェラ社の販管費計上 +181億円

* 2024年10月31日に公表しました2025年3月期通期の連結業績予想を記載しております。

(参考) 2025年3月期 通期業績 (フルベース)

億円	2023年度 実績	2024年度 実績	前期比		2024年度 予想*
			増減額	増減率	
売上収益	5,027	<u>4,869</u>	▲158	▲3.1%	4,850
売上原価	1,271	<u>1,479</u>	208	16.4%	1,300
研究開発費	1,122	<u>1,499</u>	377	33.6%	1,470
販管費及び 一般管理費	1,003	<u>1,257</u>	254	25.3%	1,230
営業利益	1,599	<u>597</u>	▲1,002	▲62.6%	820
税引前利益	1,637	<u>593</u>	▲1,044	▲63.8%	815
当期利益 (親会社所有者帰属分)	1,280	<u>500</u>	▲779	▲60.9%	580

増減内訳

売上原価 +208億円

主な要因

- 無形資産および公正価値評価された棚卸資産の償却費計上 +215億円
- 前期に計上した販売権の減損損失による反動減 ▲111億円
- フォシーガ販売達成マイルストーン +136億円

研究開発費 +377億円 研究開発費率：30.8%

主な要因

- 臨床試験に係る開発費用の増加
- デサイフェラ社の研究開発費計上 +242億円
- itolizumab、ONO-7018に係る減損損失 +60億円
- LigaChem社への契約一時金等支払

販売費及び一般管理費 +254億円

主な要因

- フォシーガ コ・プロモーション費用の増加
- デサイフェラ社の販管費計上 +181億円
- デサイフェラ社買収に係る費用の計上

* 2024年10月31日に公表しました2025年3月期通期の連結業績予想を記載しております。

(参考) 2025年3月期 連結コア調整表

億円	IFRS(フル) ベース	コア調整項目			コアベース
		無形資産に 係る償却費	減損損失	その他	
売上収益	4,869				4,869
売上原価	▲1,479	146		265	▲1,069
売上総利益	3,389	146	-	265	3,800
研究開発費	▲1,499		60	5	▲1,433
販売費及び 一般管理費	▲1,257			35	▲1,222
その他収支 (費用▲)	▲37		20	▲2	▲18
営業利益	597	146	80	303	1,127
営業利益率	12.3%				23.1%
金融収支 (費用▲)	▲5			18	12
税引前当期利益	593	146	80	320	1,139
法人所得税	▲92	▲40	▲23	▲80	▲234
親会社持分当期利益	500	107	57	240	904

調整内訳

売上原価 411億円調整

主な要因

- 買収や導入により獲得した無形資産に係る償却費
- フォシーガ販売達成マイルストーン 136億円
- PPA在庫に係る償却費

研究開発費 65億円調整

主な要因

- itolizumabに係る減損損失 35億円
- ONO-7018開発中止に係る減損損失 25億円

販管費・その他収支 53億円調整

主な要因

- デサイフェラ社買収に係る費用の計上
- Deciphera & Ono Pharma USの統合に係る減損損失



売上収益
4,900億円

前期比31億円増加
(+0.6%)



製品商品売上 3,300億円

前期比8億円減少 (▲0.2%)



ロイヤルティ・その他 1,600億円

前期比39億円増加 (+2.5%)

2026年3月期 通期予想 製品別売上

億円単位

内訳 製品商品売上（国内）	2024年度 実績	2025年度 予想	前期比	
			増減額	増減率
オプジーボ点滴静注	1,203	<u>1,250</u>	47	3.9%
フォーシーガ錠	896	<u>800</u>	▲96	▲10.7%
オレンシア皮下注	266	<u>280</u>	14	5.2%
グラクティブ錠	183	<u>120</u>	▲63	▲34.6%
ベレキシブル錠	105	<u>110</u>	5	4.4%
カイプロリス点滴静注用	86	<u>90</u>	4	4.6%
パーサビブ静注透析用	84	<u>90</u>	6	6.7%
オンジェンティス錠	76	<u>90</u>	14	17.8%
内訳 製品商品売上（海外）	2024年度 実績	2025年度 予想	前期比	
			増減額	増減率
オプジーボ	131	<u>135</u>	4	2.9%
キンロック	255	<u>340</u>	85	33.4%
ロンビムザ	非開示	<u>50</u>	—	—

・国内製品商品は、仕切価格（出荷価格）ベースでの売上収益を開示しております。
 ・海外製品商品は、正味売上ベースでの売上収益を開示しております。



コア営業利益
1,140億円

前期比 13億円増加
(+1.2%)



売上収益 4,900億円

前期比31億円増加 (0.6%)



研究開発費 1,500億円

前期比67億円増加 (+4.7%)



販売費および一般管理費 1,200億円

前期比22億円減少 (▲1.8%)

2026年3月期 通期予想（コア/対前年度比）

億円	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額	増減率
売上収益	4,869	<u>4,900</u>	31	0.6%
売上原価	1,069	<u>1,035</u>	▲34	▲3.1%
研究開発費	1,433	<u>1,500</u>	67	4.7%
販管費及び一般管理費	1,222	<u>1,200</u>	▲22	▲1.8%
コア営業利益	1,127	<u>1,140</u>	13	1.2%
コア税引前利益	1,139	<u>1,140</u>	1	0.1%
法人所得税	234	<u>230</u>	▲4	▲1.8%
コア当期利益 (親会社所有者帰属分)	904	<u>910</u>	6	0.7%

増減内訳

売上原価 ▲34億円 (▲3.1%)

主な要因

- フォシーガ錠や長期収載品の売上減少

研究開発費 +67億円 (+4.7%)

主な要因

- デサイフェラ社に係る費用(9か月から12か月分へ)
- Ionis社から導入したSapablursenに係る費用
- 経費効率化の推進

販売費および一般管理費 ▲22億円 (▲1.8%)

主な要因

- 経費効率化の推進

* 業績予想における通期の為替レートは、1ドル=145円で想定。

2026年3月期 通期予想（フル/対前年度比）

億円	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額	増減率
売上収益	4,869	<u>4,900</u>	31	0.6%
売上原価	1,479	<u>1,350</u>	▲129	▲8.8%
研究開発費	1,499	<u>1,500</u>	1	0.1%
販管費及び一般管理費	1,257	<u>1,200</u>	▲57	▲4.5%
営業利益	597	<u>850</u>	253	42.3%
税引前当期利益	593	<u>850</u>	257	43.3%
法人所得税	92	<u>180</u>	88	96.5%
当期利益 (親会社所有者帰属分)	500	<u>670</u>	170	33.9%

増減内訳

売上原価 ▲129億円 (▲8.8%)

主な要因

- フォシーガ錠や長期収載品の売上減少
- 昨年フォシーガ販売マイルストンの計上に伴う反動減

研究開発費 +1億円 (+0.1%)

主な要因

- デサイフェラ社に係る費用(9か月から12か月分へ)
- Ionis社から導入したSapablursenに係る費用
- 昨年開発化合物の減損損失計上に伴う反動減

販売費および一般管理費 ▲57億円(▲4.5%)

主な要因

- デサイフェラ社に係る費用(9か月から12か月分へ)
- 経費効率化の推進

* 業績予想における通期の為替レートは、1ドル=145円で想定。
為替感応度は1円の円安で売上収益が13億円増加、営業利益が3億円増加を想定しています。

Deciphera社の業績動向

- 2024年6月に買収完了し2024年7月よりP/L連結開始
- 上市済の医薬品「QINLOCK」の販売は堅調に進捗しており、2025年3月期売上は255億円であった。2026年3月期売上は340億円を見込む。
- 2025年2月には腱滑膜巨細胞腫治療薬「ROMVIMZA」の米国での販売を開始。2025年7月を目途にOno Pharma USとDecipheraの機能を統合。2027年度の単年単体黒字化を見込む。

2025年3月期
実績
(2024.7-2025.3)

製品売上：261億円（計画比102.4%）
費用：423億円
-研究開発費 242億円、販管費181億円



（40ヶ国以上で承認）

2026年3月期
通期予想
(2025.4-2026.3)

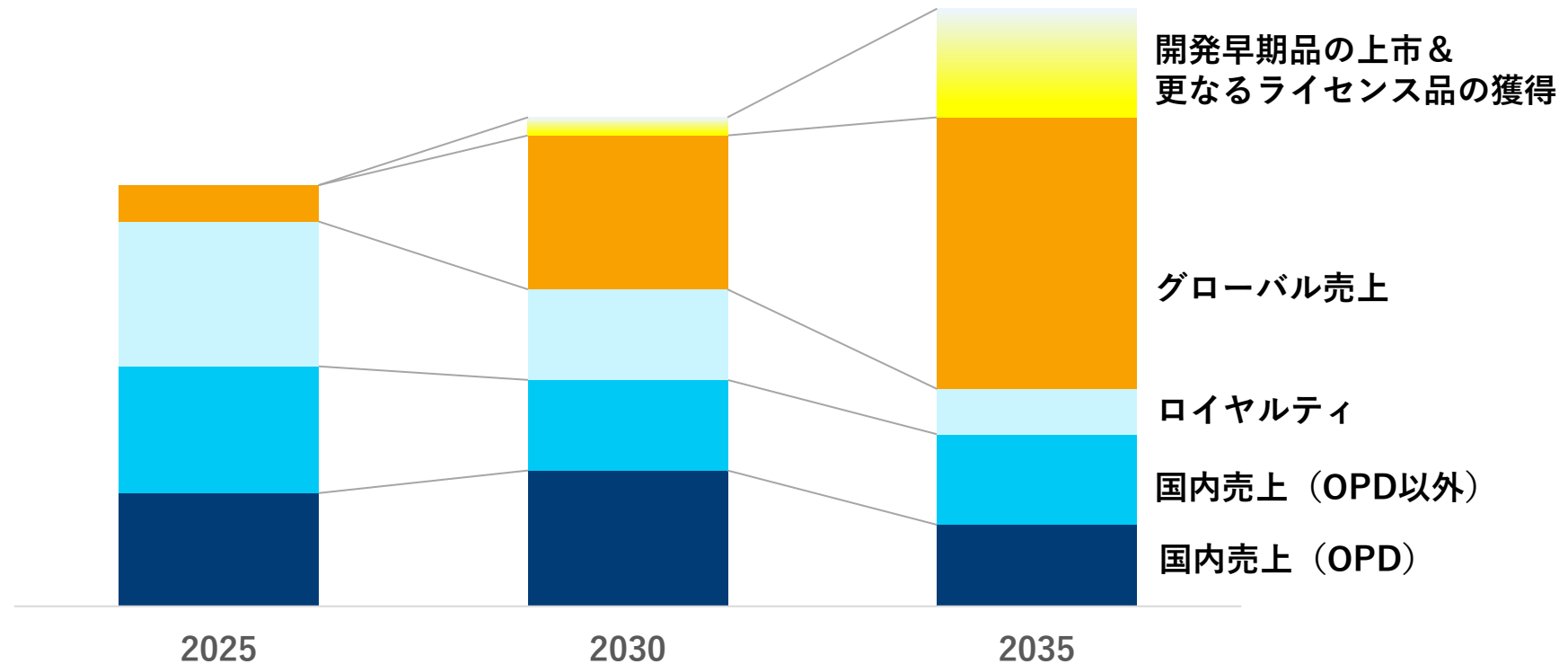
製品売上：約400億円
費用：約570億円
-研究開発費 約360億円、販管費 約210億円



（米国で上市、欧州申請中）

今後10年の成長イメージ

- + グローバル製品（QINLOCK、ROMVIMZA、VELEXBRU、Sapablursen）の売上拡大
- + オプジーボの皮下注製剤及び合剤のロイヤルティは静注製剤の特許満了後も継続
- + ONO-2017、Gel-Oneの国内上市
- + 自社創製品の上市
- 2025-2026年にかけて、糖尿病関連製品（フォシーガ、グラクティブ）の特許満了
- オプジーボの特許満了（2028年米国、2030年欧州、2031年日本）



政策保有株式の縮減結果

➤ 縮減計画（2021年11月1日公表）

- 今後3年半で、2021年9月末（1,418億円）に対して、30%相当の政策保有株式を縮減する。
- 中長期計画で、純資産に占める政策保有株式の割合（貸借対照表計上ベース）について、10%未満を目指す。



➤ 縮減結果

- ・ 縮減額（2021年9月末時価ベース）：695億円（49.0%）縮減
- ・ 純資産に占める政策保有株式の割合（貸借対照表計上ベース）：9.4%

	2021年9月末	2025年3月末	縮減額(※)	縮減率
2021年9月末時価ベース	1,418億円	723億円	695億円	49.0%

(※)2021年10月以降に取得した成長投資案件も含まれております。

(参考)

	2021年9月末	2025年3月末	縮減額	縮減率
貸借対照表計上額	1,418億円	741億円	677億円	47.7%

※2025年3月末
連結純資産に占める政策保有株式の割合：9.4%

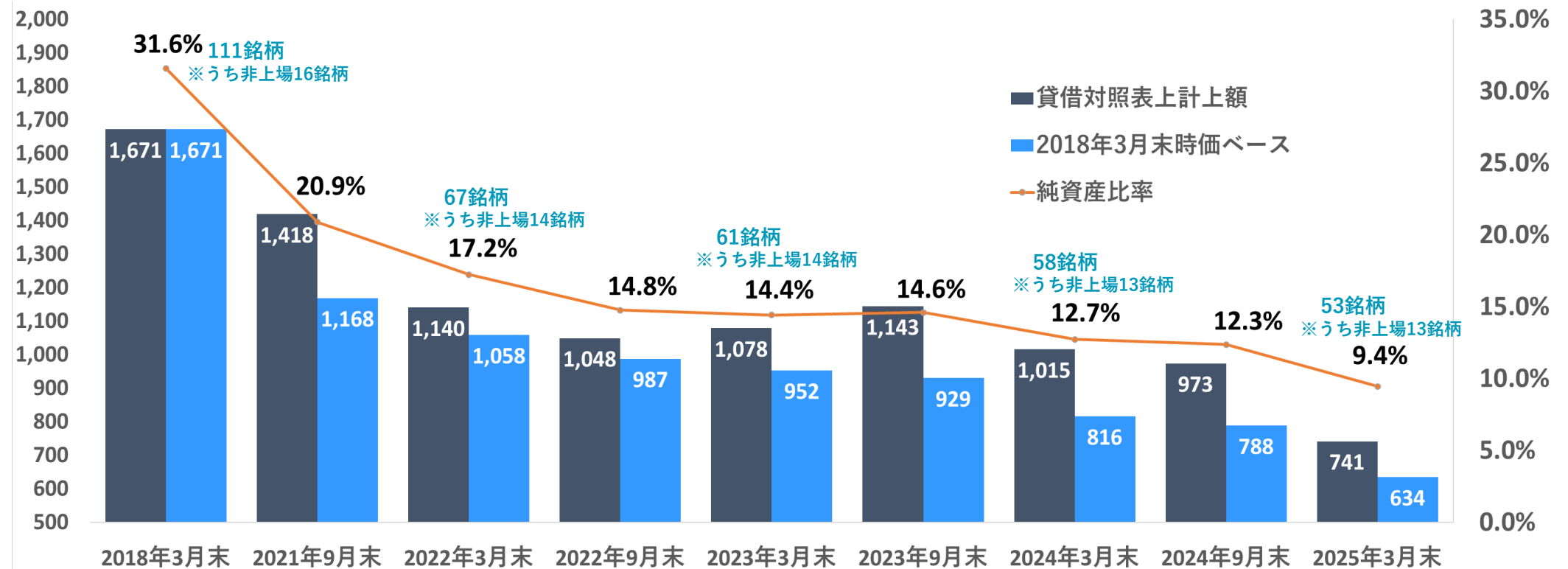
今後の政策保有株式の縮減方針

➤ 縮減方針

当社の企業価値向上に向けて、引き続き縮減に取り組んでまいります。

➤ 縮減状況

(単位:億円)



投資アロケーション(2022~2026年度)のアップデート

